

鷺沼小学校で「Get The Point」が行われ、 子どもたちもゲームを楽しみ、SDGsを考えました

坂本智子(国際交流部会)

習志野市国際交流協会は、SDGsの理念の下、差別や不平等をなくし、多文化共生の地域づくりを推進していくことを活動目標に掲げていますが、その一環として、国際交流部会はSDGs学習ゲーム「Get The Point」を活用して、SDGsの理解と普及に取り組んでいます。

2月2日(木)と3日(金)の2日間、国際交流部会は鷺沼小学校4年1組～4組で2コマの授業時間をいただき、「Get The Point」のワークショップを行いました。進行はゲームの認定ファシリテーターである広報部会の関根洋幸さんが務めました。

このゲームは資源(再生できるものとできないもの)カードを使って、その資源で作られるアイテムのポイント数を競う、4人1組で行なうゲームです。1ゲーム目は個人戦です。資源カードがなくなるまで行い、点数が高かった人が勝ちになります。2ゲーム目はチーム戦。課題カード「クライシス(危機)とサステナブル(お助け)」が加わり、資源カードがなくならないよう10周行い、11周目ができる状態で終了します。

チームメンバーが平等にアイテムをゲットし、かつ、高得点を目指すので、話し合いと協力が求められます。1ゲーム目では得点を取ることだけに集中していた子どもたちが、2ゲーム目ではチームメンバーのアイテムを確認しながら、協力と工夫によって取り組んでいました。課題カードを引くと大きな歓声やどよめきが起こり、ワークショップは大いに盛り上がりました。ゲームの後には、ポリアの子供たちの事例をスライドを見て、進行役に「もし現実の世界でこんなことが起きたらみんなはどうする?」と問いかけられ、子どもたちは自分たちにできる行動は何かを考えました。来年創立150周年を迎える鷺沼小学校は、

SDGsの啓蒙活動に積極的に取り組んでいて、校内には17の目標が所々に掲示され、6年生になると子供たちデザインのSDGsののぼり旗を作成しているそうです。

今回のワークショップが子どもたちのSDGsの学びと、さらには習志野市のパートナーである姉妹都市タスカルーサとのつながりを考えるきっかけになれば嬉しく思います。



ゲームは4人で協力して進めます



SDGsについて考えた発言もありました